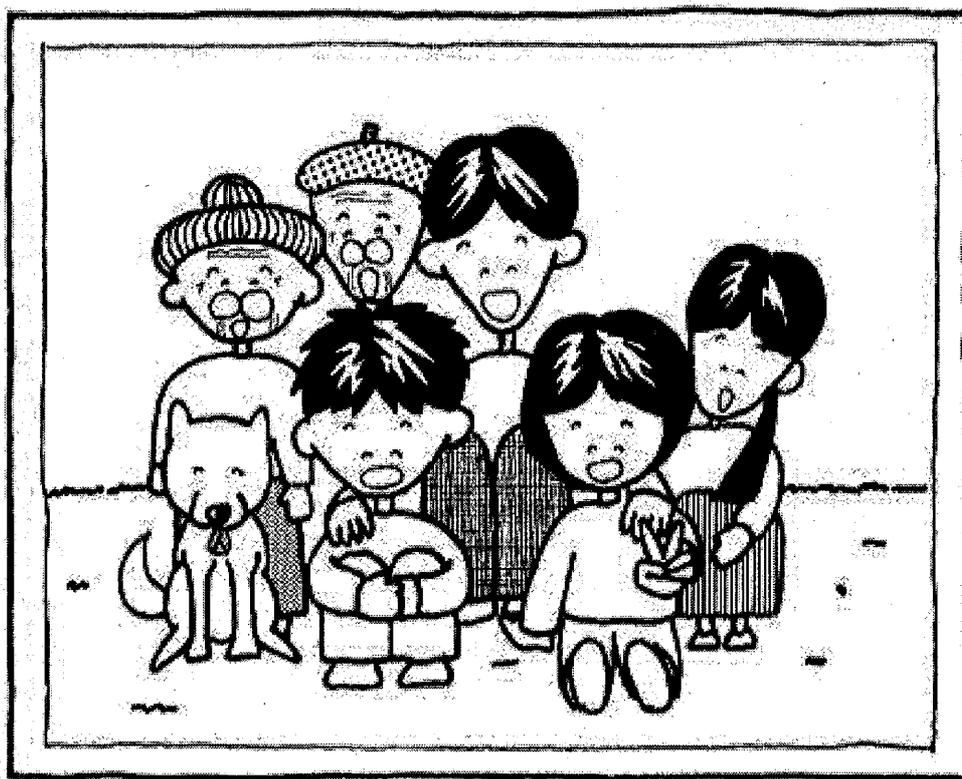


やすらぎとふれあいに満ちた  
“ほっと”なまち

渋川地区の未来に向けて

市町村合併住民説明会資料



渋川市 伊香保町 小野上村  
子持村 赤城村 北橋村  
渋川地区市町村任意合併協議会

## 目次

<b>1</b>	<b>なぜ、合併が必要なの？</b>	
	(1) 市町村合併の背景	1
	(2) 合併の必要性	1
<b>2</b>	<b>合併により期待される効果は？心配されることは？</b>	
	(1) 合併の効果	2
	(2) 合併に関する懸念への対応	2
<b>3</b>	<b>地域の人口は？</b>	
	(1) 主要指標の見通し	4
<b>4</b>	<b>新しいまちづくりは？</b>	
	(1) まちづくり計画の趣旨	5
	(2) まちづくり計画の構成	5
	(3) まちづくりの基本方針	6
	(4) 将来像の導き出し	8
	(5) 新市建設の基本的施策	9
	(6) 地域別まちづくりの方向	10
	(7) 新市の将来都市構造	16
<b>5</b>	<b>合併後の財政は？</b>	
	財政面における合併効果	18
<b>6</b>	<b>合併したらどうなるの？</b>	
	協議の結果	21
<b>参考資料</b>		
	1 これまでの経緯	36
	2 住民意識調査結果	37
	3 財政支援策の概要	43
	4 今後のスケジュール	44

## はじめに

渋川市・伊香保町・小野上村・子持村・赤城村・北橋村では、昨年8月28日に「渋川地区市町村任意合併協議会」を設立し、6市町村の合併についてさまざまな角度から検討・協議を行ってきました。

そして、今こそが市町村合併のさまざまなスケールメリットを活かした新しいまちづくりと、思い切った行財政改革を行う絶好の機会として、地域の自立と将来の飛躍に向けて積極的に取り組むべきであると考えられます。

この資料は、合併の検討を進めるにあたっては、住民の皆さんの合併問題に関する理解と情報共有を深めることが重要であるため、市町村合併の考え方と構成6市町村の方向性を幅広く理解していただけるよう作成したものです。

# 1 なぜ、合併が必要なの？

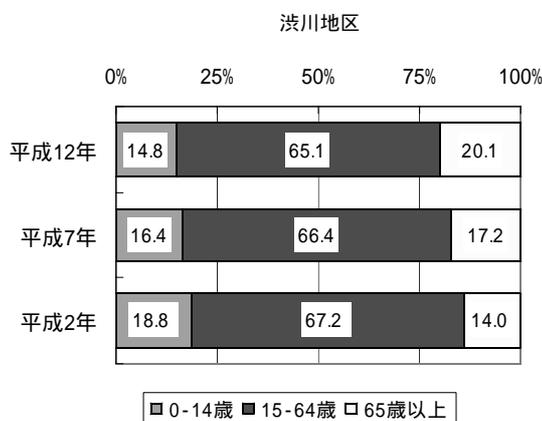
## (1) 市町村合併の背景

### 少子高齢化の進行・日常生活の広域化・住民ニーズの多様化・国・地方財政の悪化

今、全国の市町村では、少子高齢化の進行、日常生活圏の拡大、住民ニーズの高度化・多様化、地方分権の推進、国・地方の厳しい財政状況など、さまざまな問題が累積し、行政運営の体制や手法についても抜本的な変革が迫られる状況となっています。国では、これらを背景に具体的かつ実効ある市町村合併の強力な推進に向けた支援を行っています。

#### 渋川地区の年齢別（3区分） 人口の推移（各年国勢調査）

- ・近年10年間（平成2年～12年）では、65歳以上人口の率が14.0%から20.1%まで増加しました。



## (2) 合併の必要性

### 安定した社会基盤の維持・たくましい行政基盤の確立・6市町村合併が最も有効な対応策

高度成長期も終焉を迎え、渋川地区の人口規模等は比較的安定しながらも、住民の方々の価値観や生活スタイルの多様化、少子・高齢化の一層の進行などに対応し、今後も定住人口の確保や生活サービス等の充実とともに、地区の活力を支える新たな産業の確立を図るなど、安定した社会基盤を維持していくことが求められています。

そして、自治体としての自立性や能力の向上に取り組むとともに、厳しい財政状況にも対応できる、たくましい行政基盤の確立を図ることが必要です。

このような現状や課題に的確に対応していくためには、渋川地区の6市町村が一層連携して取り組む必要性があり、市町村合併が最も有効な対応策であると考えます。



## 2 合併により期待される効果は？ 心配されることは？

### (1) 合併の効果

#### 地域社会の維持・・・福祉や介護サービスの安定的な提供・施設整備の充実



合併によって財政・人材双方の充実とともに、福祉や介護サービスの安定的な提供や、施設整備の充実が期待できます。

#### 産業活力の向上・・・広域的な交流の活発化・新たな活力や魅力の創出



合併によってそれぞれの地域特性を活かしながら、交通基盤の充実や地域資源・施設の利用充実などを進め、地域内そして広域的な交流の活発化や、新たな活力や魅力の創出が実現されます。

#### 行財政状況の健全化・・・人件費削減・住民との協働・マンパワーの向上



合併によって人件費削減による財政負担の軽減、特例債活用等による現行行政運営の維持や、より効率的なサービス体制の構築のほか、住民との協働、専門の人材の育成などによるマンパワーの向上などにより、新たな行政運営への取組みが可能となります。

#### 地区の「まちづくり」の一体性確保・・・基盤施設の効率性向上・河川利用



合併によって既存の基盤施設等の共通利用による効率性向上、土地活用の向上などが推進されることが期待できる他、各地区の共通資源としての河川利用などの新たな取組みへの展開も可能になります。

### (2) 合併に関する懸念への対応

Q 区域の拡大や議員数の減少により、住民の声が届きにくくなるのでは？

A 旧市町村間の調整を図る「地域審議会」で対応が可能です！

地域ごとの公聴会、行政モニターなど従来からあるものだけではなく、旧市町村間の調整を図る「地域審議会」を設置し、合併前の旧市町村の意向に対応できるようになっています。



**Q 役場が遠くなって、今までより不便になりませんか？**

**A 合併後も、町村役場が支所となり、同様のサービスが受けられます！**

合併後も、それまでの町村役場は、新市の支所として使われ、住民票の写しや印鑑証明の交付といった窓口サービスをはじめ、住民の皆さんに密着したサービスは支所で扱われます。

また、支所は住民組織や住民活動を総合的に支援し、インターネット等を活用した、電子申請化サービスの充実に努めていきます。



**Q 中心部だけがよくなって、周辺部はさびれませんか？**

**A 地域のバランスある発展に配慮し、新市建設計画（まちづくり計画）を作成します！**

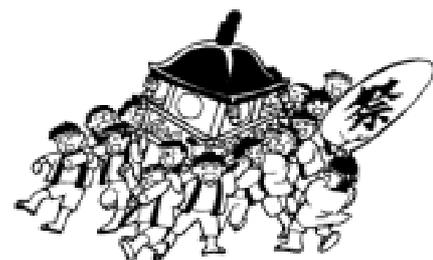
合併前に、地域住民のさまざまな意見を反映させながら、合併後のまちづくりをどのように進めていくか話し合い、地域全体がバランスよく発展することに配慮した新市建設計画（まちづくり計画）を作成します。新市建設計画や各種計画など、地域の皆さんの意見を聞きながら施策に反映し、住民と行政とが協働したまちづくりを目指します。



**Q 地域の個性や特徴がなくなりませんか？**

**A 各地域の歴史・文化・伝統を尊重し、コミュニティの充実を支援する体制を強化します！**

各地域で育まれてきた歴史や文化、伝統などを尊重し、個性や特徴を伸ばせるまちづくりを目指します。また、地域住民の1人1人が地域づくりに積極的に参加し、地域のさまざまな課題を研究しながら、自分の地域のことは自分で行う地方分権社会の担い手となるなど、コミュニティの充実を支援する体制を強化していきます。



### 3 地域の人口は？

#### (1) 主要指標の見通し

##### 少子高齢化が進み、10年後の渋川地区の人口は83,000人

現在の目標値としては、各市町村の総合計画に目標人口が示されていますが、国・県の動向、平成12年までの動向を加味した推計によれば、現在人口より減少することが予想されています。

更に、6市町村別に、国立社会保障・人口問題研究所による推計法を用いて求めた値を合算した推計値では、平成27年で約83,000人と見込まれます。

総人口		平成12(2,000)年	平成22(2,010)年	平成27(2,015)年
		89,795	85,726	82,805
年齢別	00歳～14歳	13,258 (14.8%)	11,209 (13.1%)	10,068 (12.1%)
	15歳～64歳	58,447 (65.1%)	52,067 (60.7%)	48,339 (58.4%)
	65歳以上	18,090 (20.1%)	22,450 (26.2%)	24,398 (29.5%)

各年年齢不詳含む

#### 【参考】

##### 国・県の人口動向

##### 国は平成18年・県は平成17年以降減少を想定

全国の人口は平成18年(2006)をピークに減少に転じると推計され、群馬県でも平成17年以降は減少に転じるものと想定されています(国立社会保障・人口問題研究所「都道府県将来推計人口(平成14年3月推計)」)。

##### 総合計画による将来人口

##### 6市町村の総合計画将来人口目標は、94,000人

目標年次設定に差異はありますが、新市建設計画の目標年次である平成27年までに、6市町村の将来目標人口を合算すると約94,000人が見込まれています。

渋川市(平成18年): 52,000人

伊香保町(平成24年): 3,500人

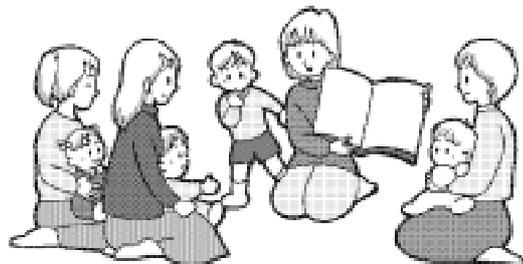
小野上村(平成22年): 2,300人

子持村(平成22年): 12,200人

赤城村(平成23年): 12,500人

北橘村(平成23年): 11,000人

約94,000人



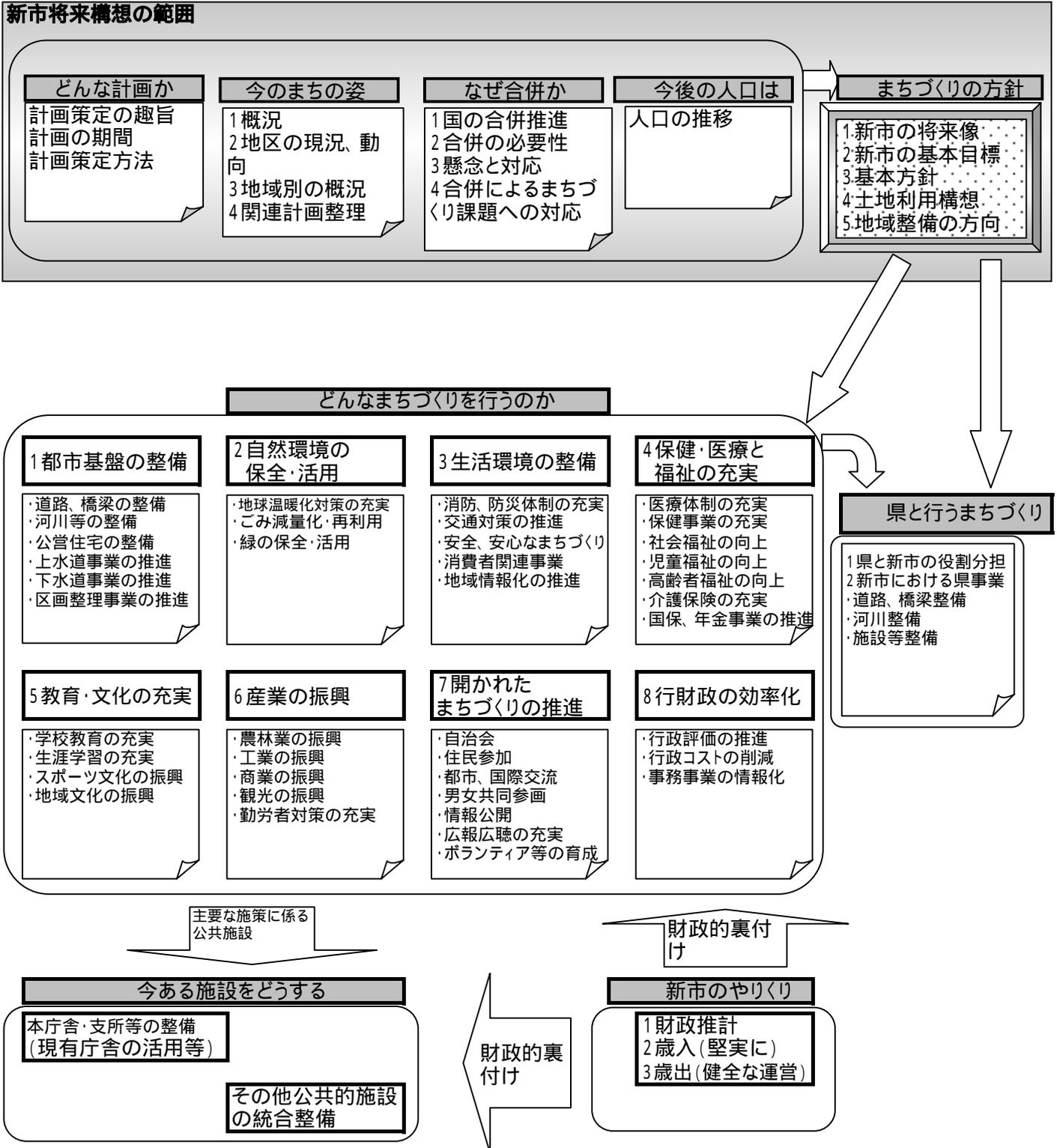
# 4 新しいまちづくりは？

## (1) まちづくり計画の趣旨

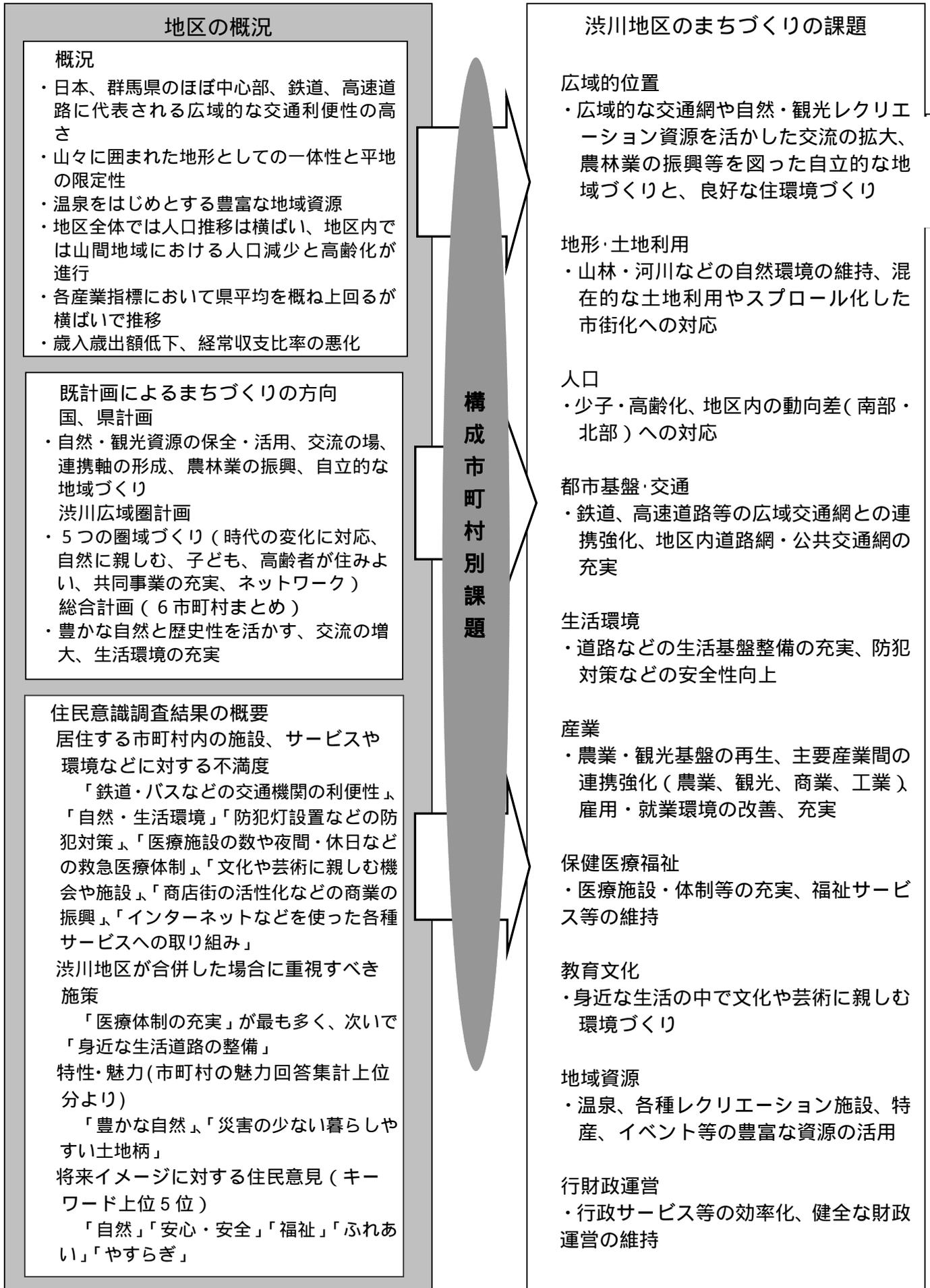
まちづくり計画は、合併後の新しいまちづくりの指針となる計画で、新しいまちの速やかな一体化を推進し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上をめざすため、どのようなまちづくりを行っていくのかをしめすものです。

計画の期間は、おおむね10年後の地域を展望するものです。

## (2) まちづくり計画の構成



# (3) まちづくりの基本方針



《合併によるまちづくりの課題への対応》  
 計画的・一体的な、自然保全と適切な開発促進  
 適正な人口構成や定住人口の確保  
 既存交通ネットワークの統合・整備、計画的な整備の促進  
 整備プログラム確立等による計画的な整備の促進  
 商圈維持と中心市街地の機能充実、観光地としての他圏域との競争力向上  
 サービスの平準化やマンパワーの維持  
 教育環境や体制の平準化  
 多様性を持った魅力化、相互の施設連携・統廃合等の促進  
 自治体の自立性維持、施設統廃合等の効率化、組織のスリム化促進

《合併の必要性》  
 ・定住人口の確保や生活サービス等の充実、地区活力を支える新たな産業の確立、厳しい財政状況への対応  
 少子・高齢化  
 住民の様々な要望  
 生活圏拡大  
 特色ある新市づくり  
 行財政運営の効率化

合併に関する懸念と対応  
 住民意見の反映  
 役場の遠隔化  
 中心部と周辺部の格差  
 サービス水準の低下  
 ・ ・ への対応

合併の効果  
 ・地域社会の維持、産業活力維持・向上、行財政状況の向上、地区まちづくりの効率化  
 ・ ・ への可能性

## 【新市建設の基本方針（骨子案）】

### 新市建設の理念

たくましい行財政基盤の確立  
 安定した社会基盤の維持  
 一体的な都市としての性格を活かしながら新しい時代に対応した地域経営を確立

渋川地区のそれぞれの地域が個性を發揮しつつ相互に連携を強め、恵まれた立地条件と豊かな自然を活かしながら地域の活力を維持・創造する

- ・自然に抱かれた やすらぎのまち
- ・地域の連携と活力があふれるまち
- ・安全・安心で心すこやかに暮らせるまち
- ・市民がつくるふれあいのあるまち

### 新市の将来像

やすらぎとふれあいに満ちた“ほっと”なまち

#### 新市建設の基本的施策（8分野で設定）

- 人にやさしく便利で快適なまちづくり（道路・交通）
- 美しく豊かな自然と共生するまちづくり（自然環境）
- 快適でやすらぎのあるまちづくり（生活環境）
- 健やかで温かな暮らしのあるまちづくり（健康・福祉）
- 豊かな心と個性ある伝統・文化を育むまちづくり（教育・文化・スポーツ）
- 地域資源と連携による活力あるまちづくり（産業）
- 参加とふれあいで築くまちづくり（コミュニティ・市民参加）
- 協働と効率化で進めるまちづくり（行財政運営）

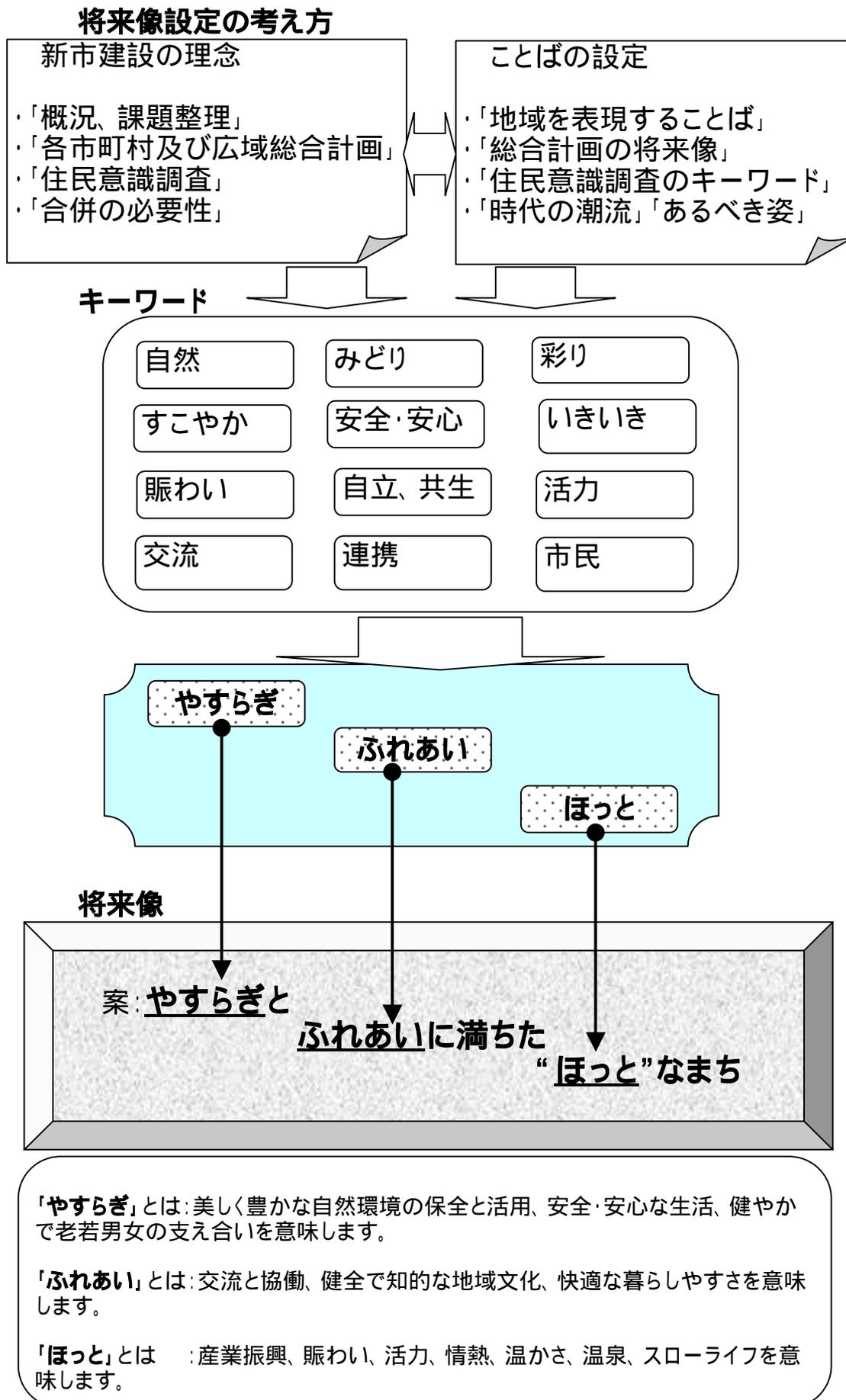
#### （設定要素）

総合計画キーワード（将来像等から抜粋：「水」、「緑」、「歴史」、「健康」、「交流」、「ふるさと」）

○将来イメージに対する住民意見（キーワード上位5位）  
 「自然」「安心・安全」「福祉」「ふれあい」「やすらぎ」

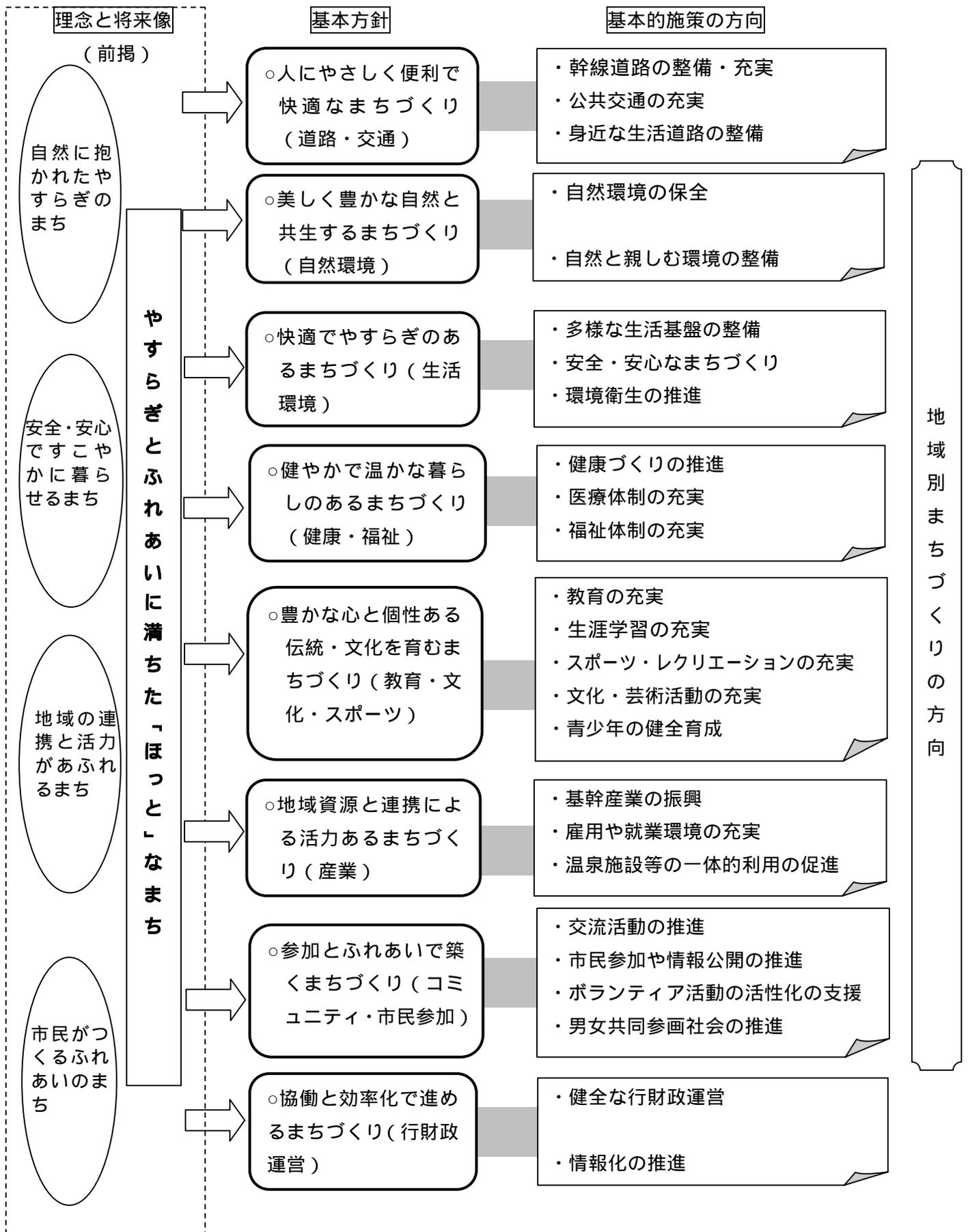
地域別まちづくりの方向

## (4) 将来像の導き出し



# ( 5 ) 新市建設の基本的施策

基本的施策の方向概念図



## ( 6 ) 地域別まちづくりの方向

渋川地区全体の将来像、基本方針の設定とともに、構成市町村を地域単位とした、地域別のまちづくりの方向を以下のとおり整理します。

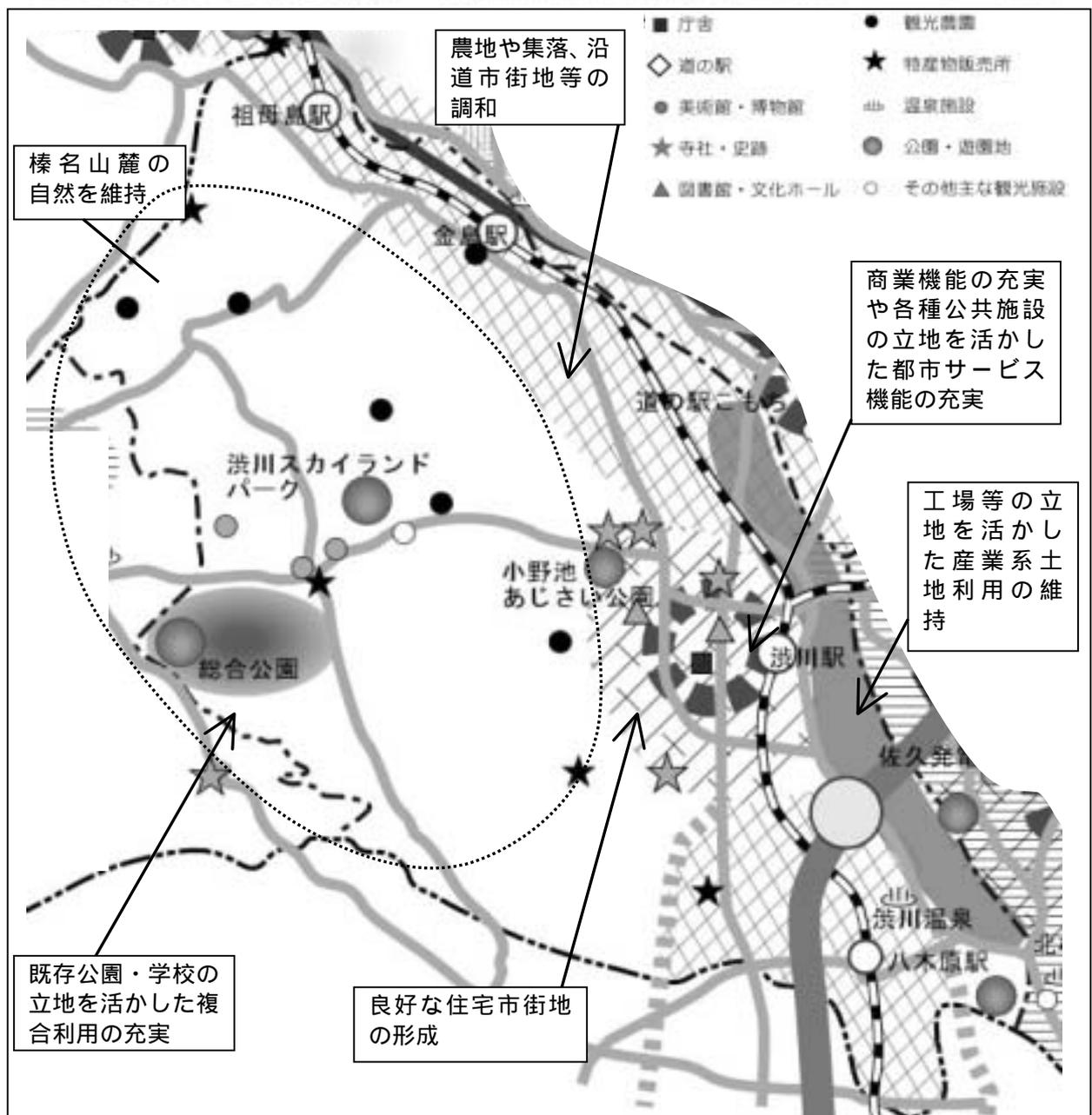
### 【渋川地域】

渋川地域は榛名山麓と利根川、吾妻川の河川に囲まれた豊かな自然に恵まれ、日本、群馬県のほぼ中央、そして鉄道駅、高速道路 IC による交通利便性、工業・商業等の産業機能が集積しています。

### 交通利便性と都市機能の集積を活かした、交流と活力のあるまちづくり

- ・ 中心市街地の活性化
- ・ 都市・地域間の連携を支える道路整備や交通機能の充実
- ・ 拠点的に都市機能を配置した、都市サービス機能や居住機能の充実

#### 概念図



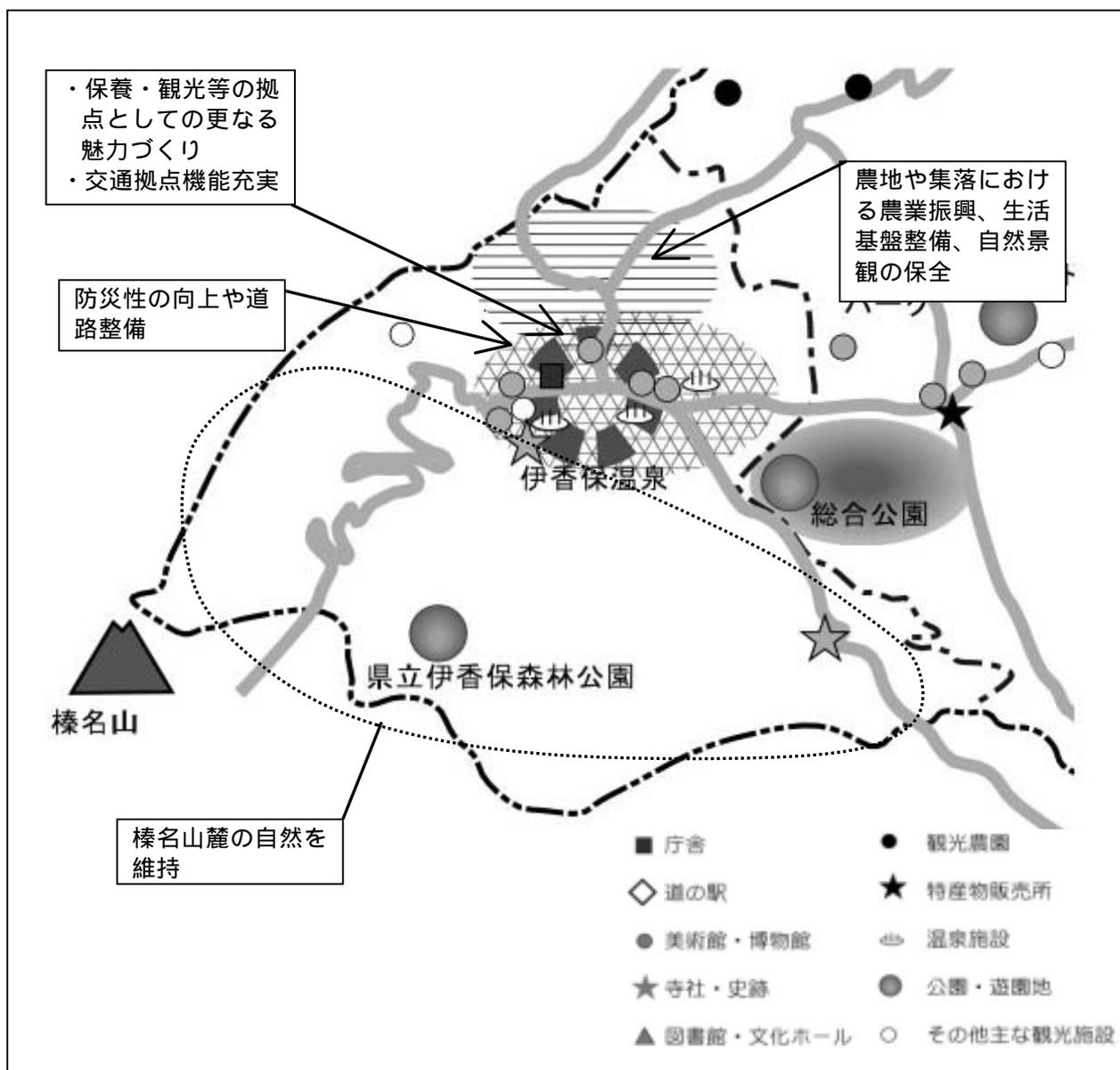
## 【伊香保地域】

伊香保地域は、榛名山麓に抱かれる、豊かな自然と温泉資源に恵まれた、古くからの歴史も有する温泉保養地です。

### 豊かな温泉と歴史性を活かした、温りのある住みやすいまちづくり

- ・保養・観光等の拠点として更なる魅力づくり
- ・交通拠点形成、防災性の向上や道路整備
- ・自然と調和した集落地の整備

概念図



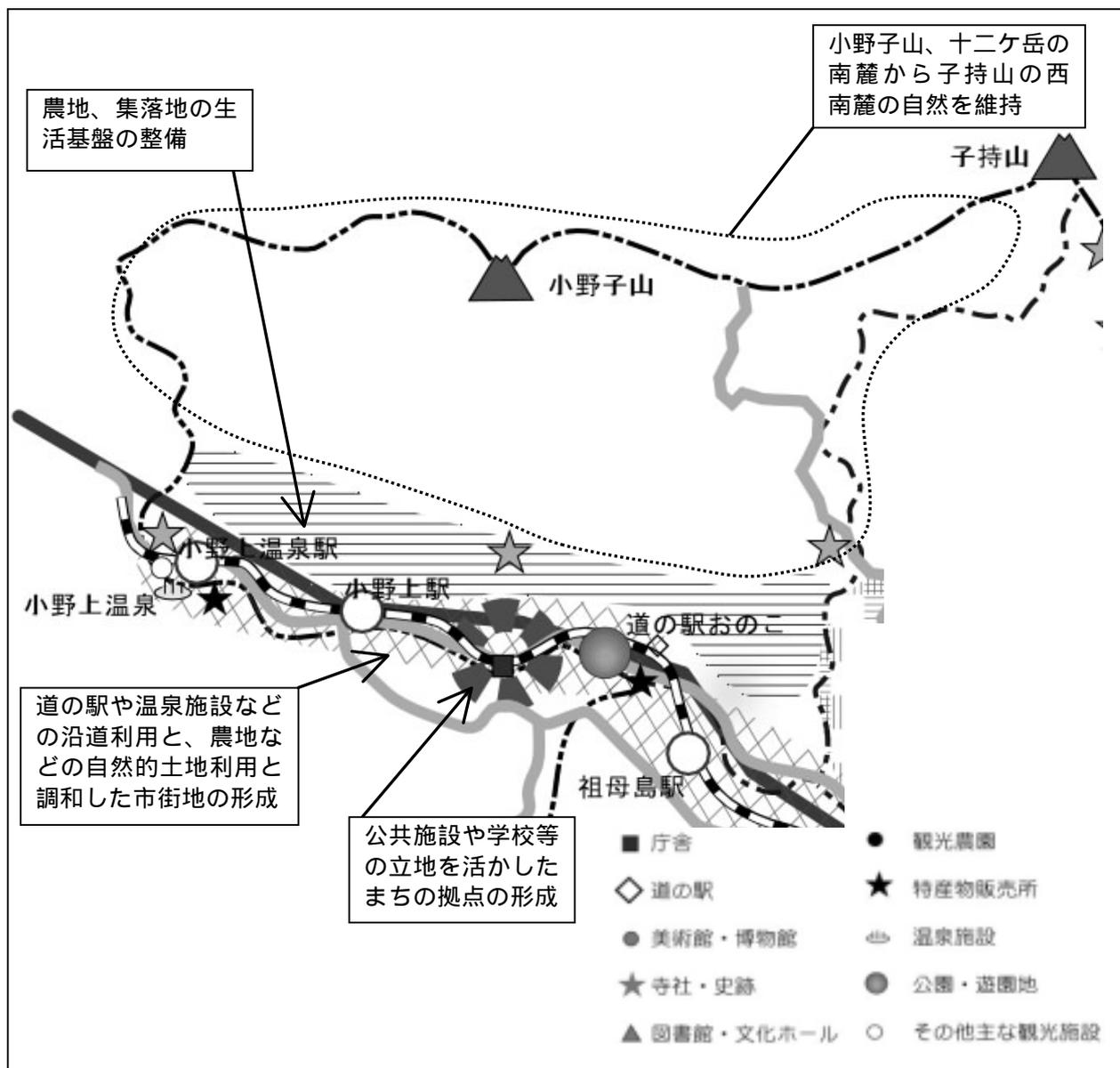
## 【小野上地域】

小野上地域は、小野子山、十二ヶ岳の南麓から子持山の西南麓に広がっており、南に吾妻川が流れ、花き、果樹、菌茸類などの農業が盛んです。地域内には2つの鉄道駅、道の駅、温泉施設があります。

### 豊かな自然と共生し、健康に暮らし憩いのあるまちづくり

- ・小野子山南麓から子持山西南麓の豊かな自然を維持・保全
- ・温泉施設や公共施設の改善
- ・まちの中心となる拠点の形成

#### 概念図



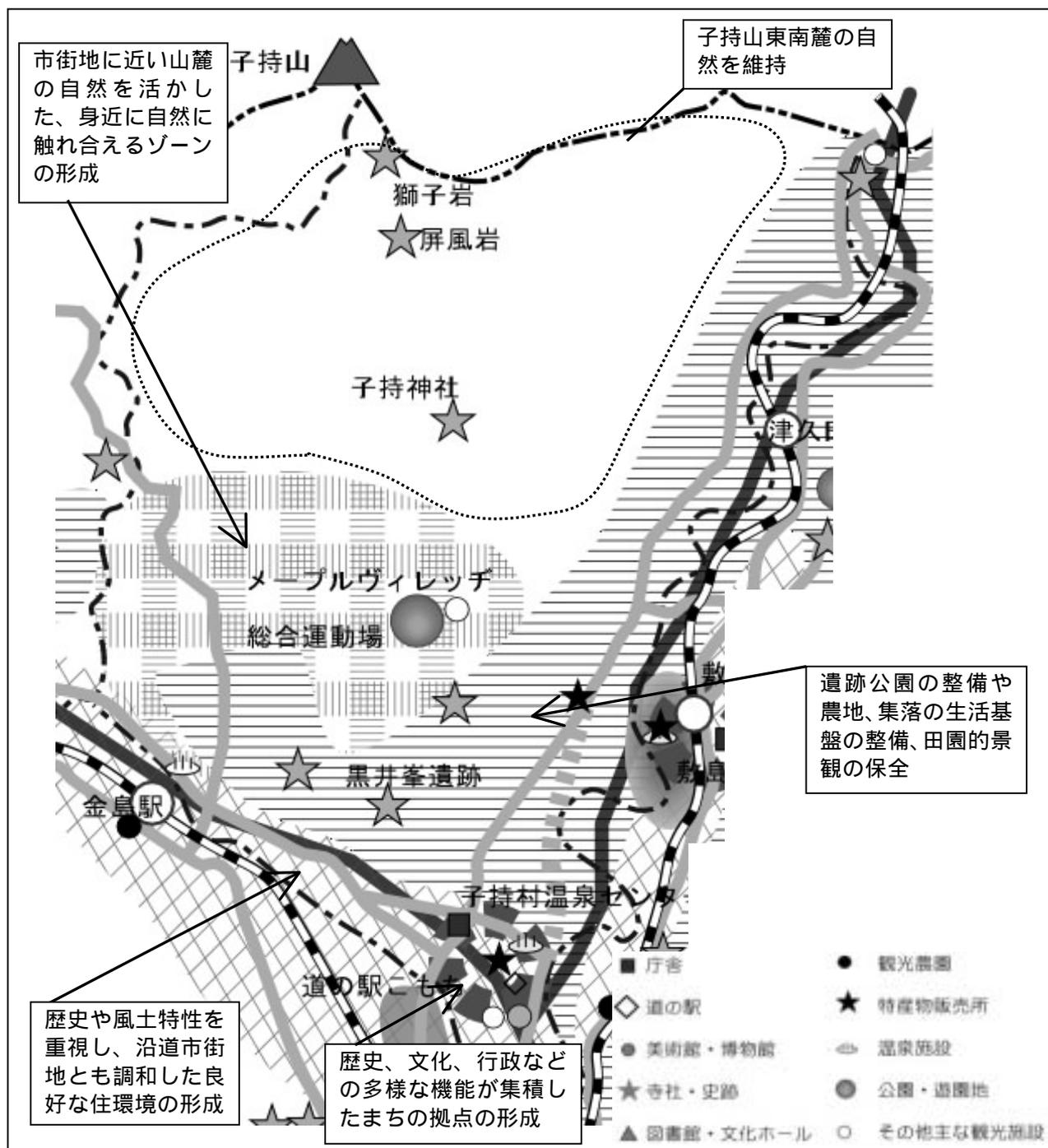
## 【子持地域】

子持地域は、子持山東南麓一帯に広がっており、利根川と吾妻川に挟まれ、渋川市と赤城村に接する部分に白井城址として城下町・宿場町の歴史を有するまちなみが形成されています。

### 自然と歴史資源を活かした、健康で住みよいまちづくり

- ・子持山東南麓の豊かな自然を維持
- ・まちの生活拠点の形成、良好な居住環境の形成や黒井峯遺跡、白井城址周辺整備
- ・歴史・自然資源を活かした花と食のまちづくり

#### 概念図



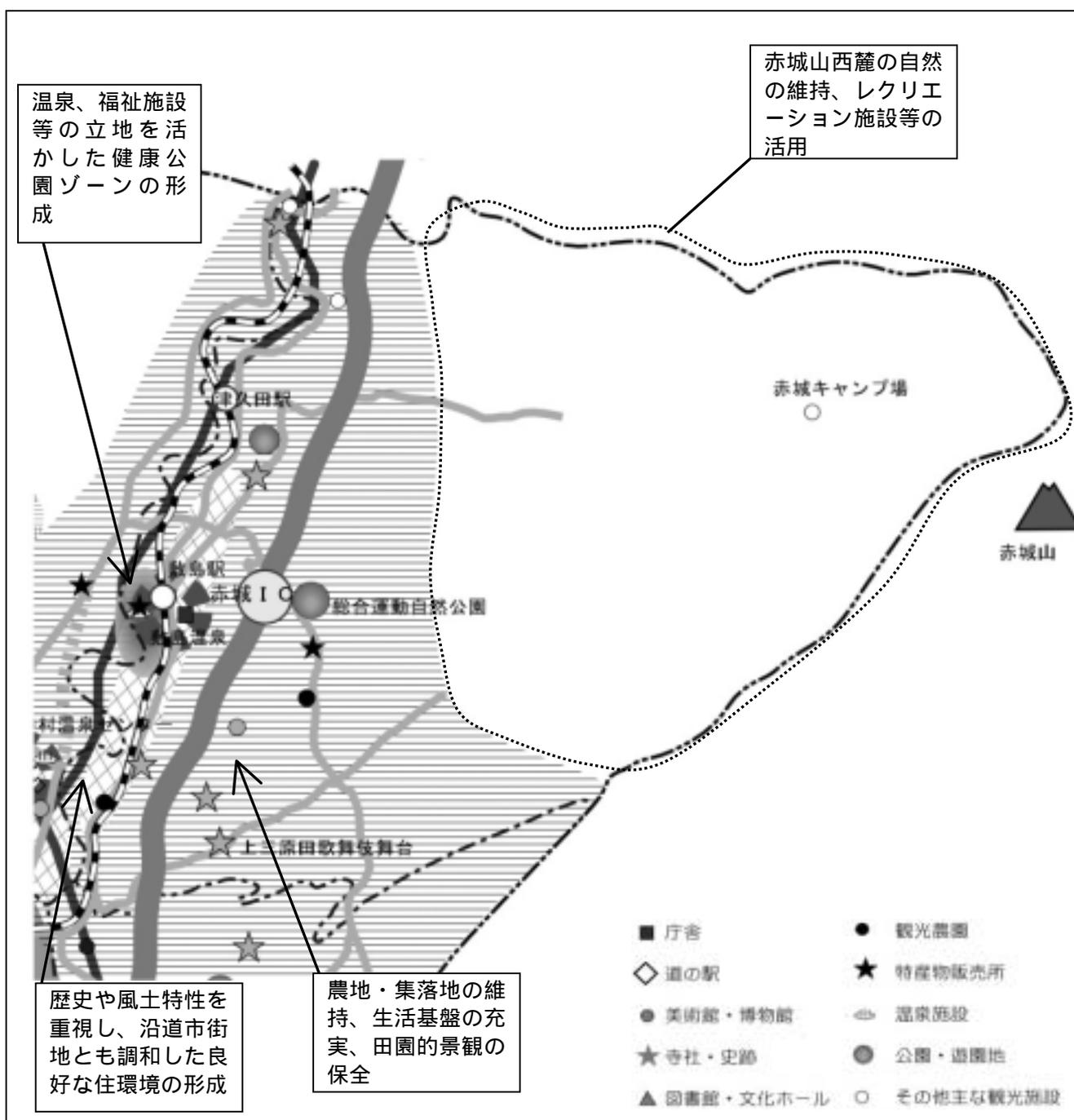
## 【赤城地域】

赤城地域は、赤城山西麓に広がり、西に利根川が流れ、鉄道駅、高速道路ICが立地し高い交通利便性と、温泉施設や、イチゴ・リンゴなどを主とした観光農業を展開しています。

### 自然と産物の恵みと交通利便性を活かした、いきいき暮らすまちづくり

- ・ 赤城山西麓の豊かな自然や産物を観光資源として活用
- ・ 健康公園ゾーンの形成
- ・ 福祉医療の充実による生活環境の向上

#### 概念図



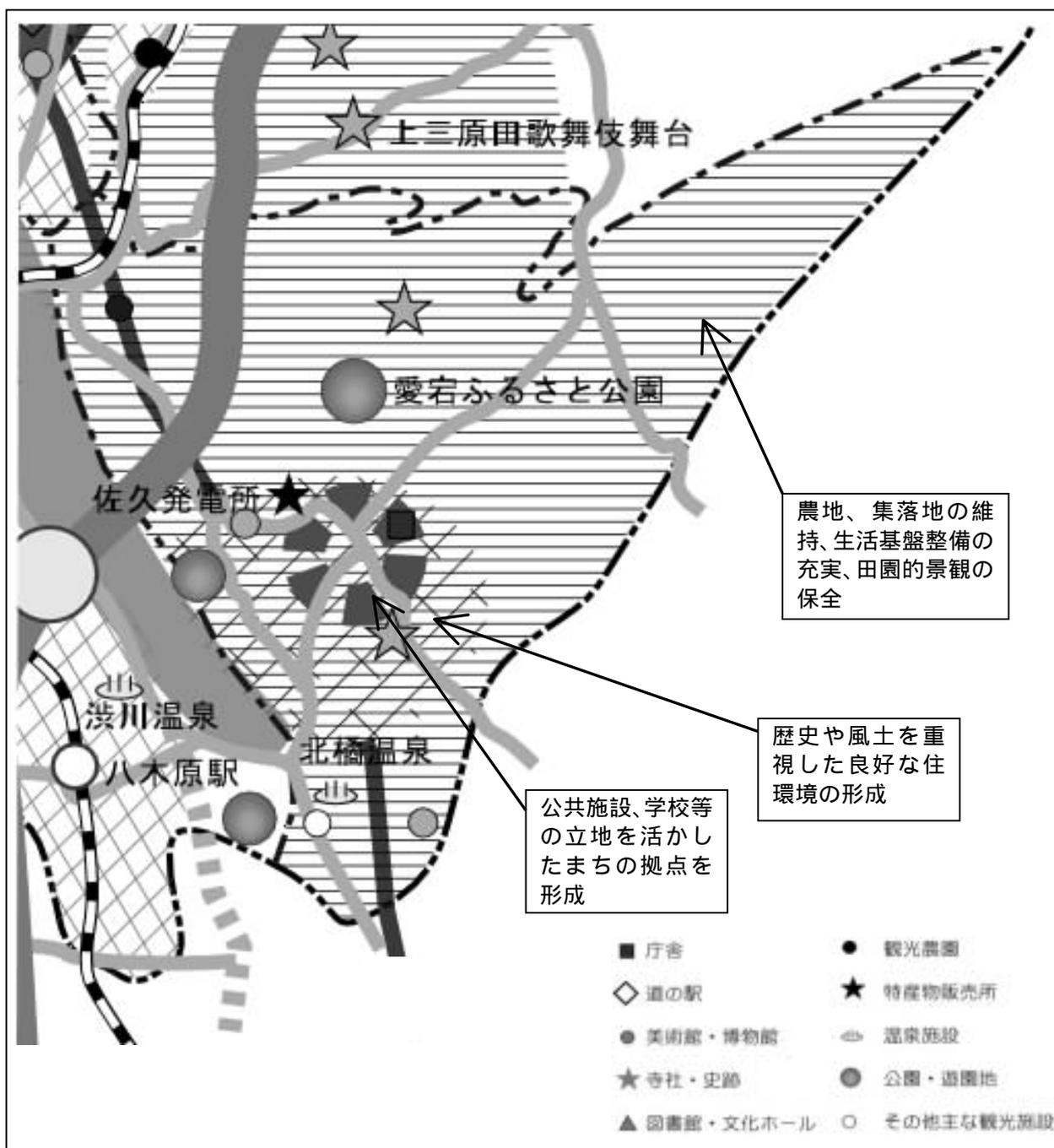
## 【北橋地域】

北橋地域は、赤城山西南麓のなだらかな斜面地に広がる穏やかな農村集落地でしたが、近年、渋川市や前橋市のベッドタウンとして、宅地化の進行が見られています。

### 身近に自然が感じられ、美しく豊かに暮らすまちづくり

- ・ 赤城山西南麓の豊かな自然や農地などの維持・保全
- ・ 温泉施設等を活かした福祉医療の充実
- ・ まちの生活拠点の形成や、公共交通網の充実

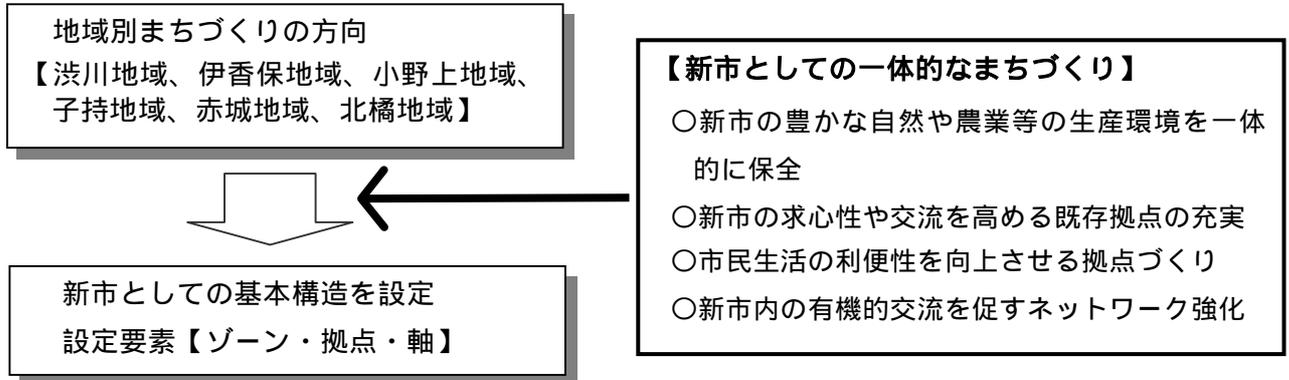
#### 概念図



## ( 7 ) 新市の将来都市構造 ( 土地利用等 )

### 基本的な考え方

新市の将来都市構造 ( 土地利用等 ) については、新市のまちづくりの前提条件となる基本構造を示すものとし、以下の考え方に基づき設定します。

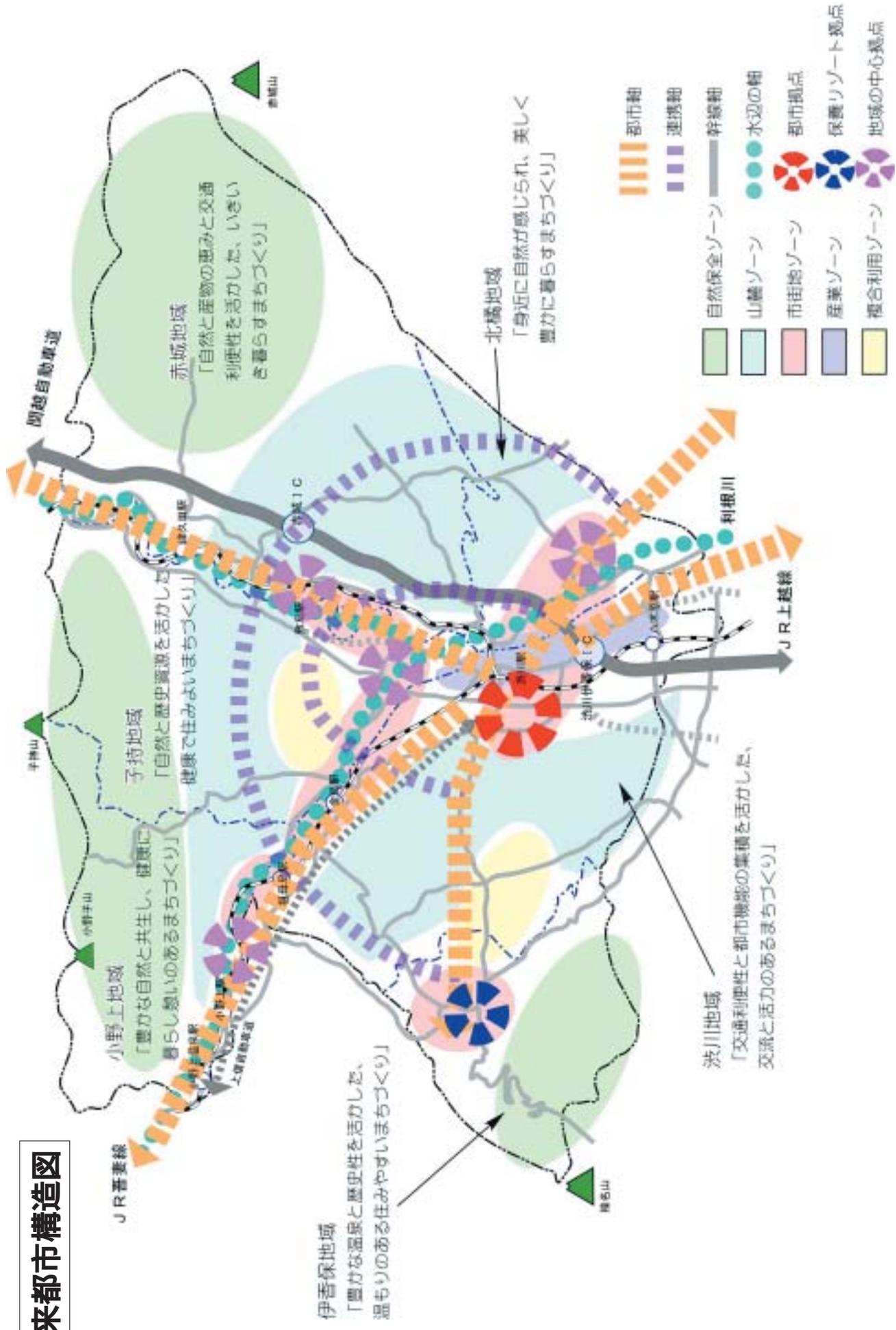


### 設定について

基本的考え方をふまえ、新市の土地利用は、自然保全ゾーン、山麓ゾーン、市街地ゾーン、産業ゾーン、複合利用ゾーンの概ね 5 つのゾーンに区分して、計画的な利用や現在ある環境の保全等を図ります。

各ゾーンの設定と共に、新市の様々な都市機能をバランスよく配置・集約するとともにそれらが相互に連携するよう、拠点と都市軸についても設定します。

# 将来都市構造図



## 5 合併後の財政は？

\*\*\* 財政面における合併効果は  
10年間で約211億円\*\*\*

### ●人件費の削減・・・10年間で約96億円

合併により、市町村長、助役、収入役、教育長、議会議員及び一般職員にかかる経費を削減することが出来ます。

### ●物件費の削減・・・10年間で約92億円

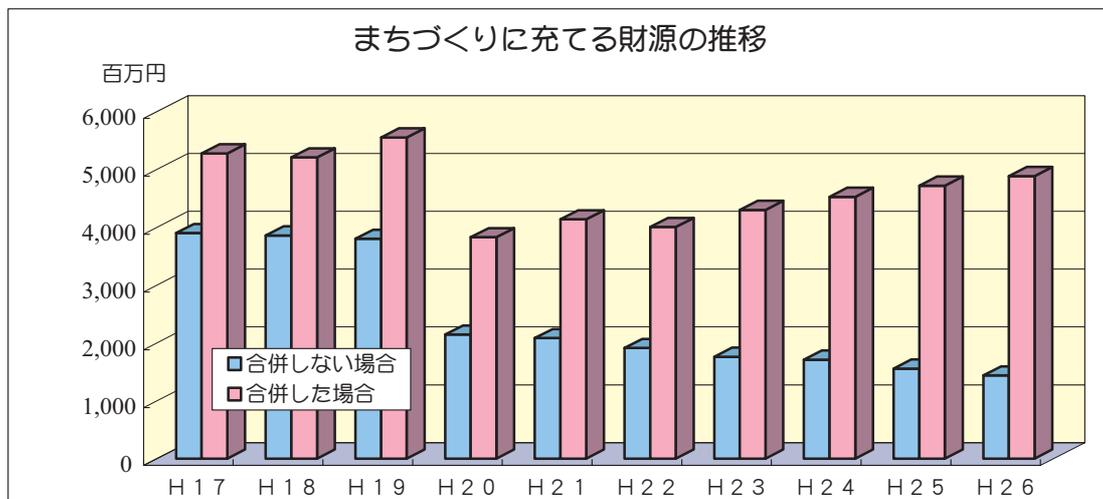
物件費とは、賃金、需用費、委託料、備品購入費等のことです。自治体が1つになることにより経費の削減が可能になります。

### ●補助費の削減・・・10年間で約23億円

補助費とは、各種団体への負担金や補助金等のことです。自治体が1つになることにより、団体等の統合によりその経費が不要になるものがあります。

\*\*\* まちづくりに充てる財源は  
10年間で約223億円\*\*\*

合併の有無により財政的体力に差異ができ、合併した場合は合併しない場合と比較し、住民が必要としている公共サービスや地域に求められている施策（道路整備、公園・学校・公営住宅等の建設）など時代の要請や住民ニーズに対応したまちづくりに充てる財源（普通建設事業費）が確保できます。



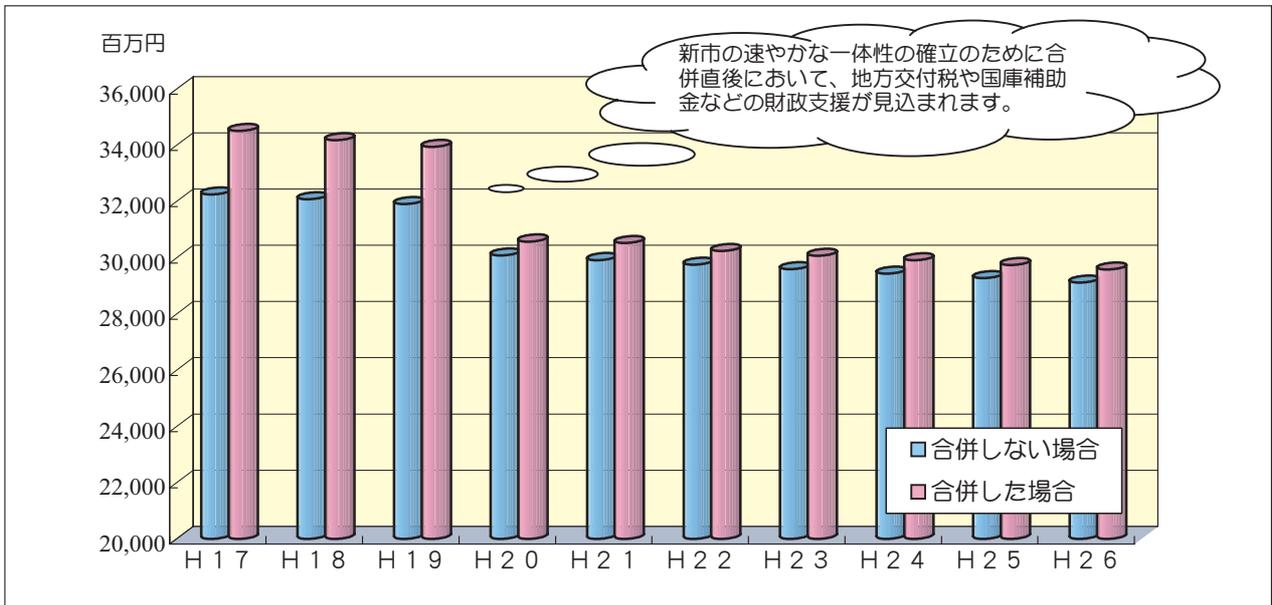
# ◇ 合併による財政効果

## 歳入

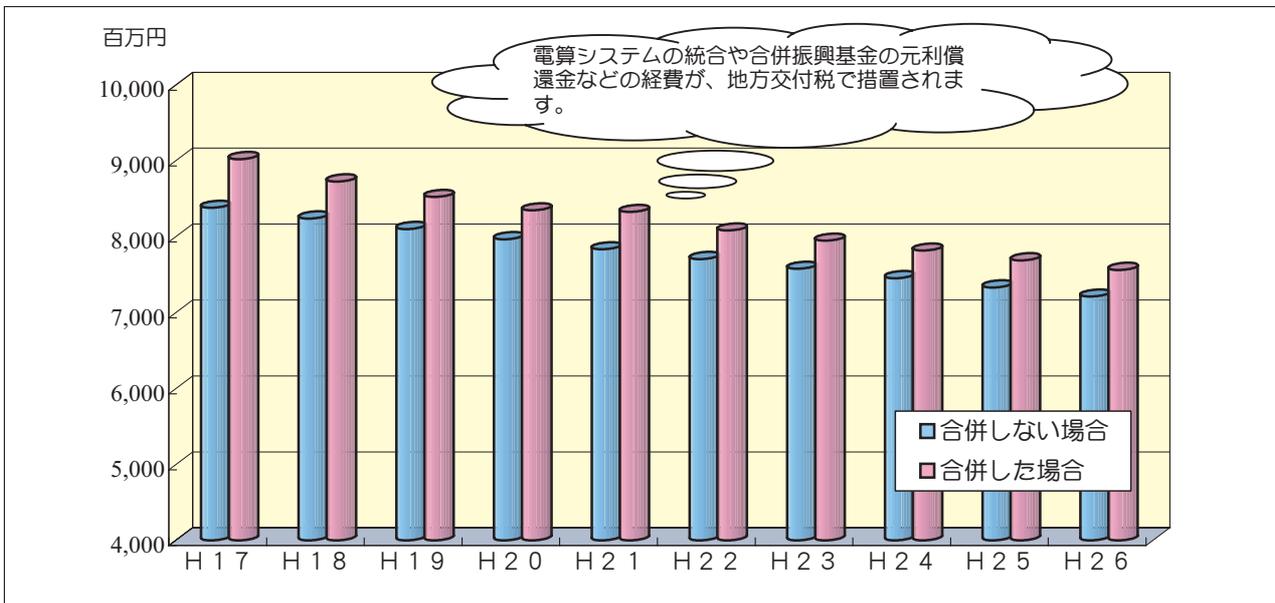
(単位：百万円)

区 分	合併後5年目(平成21年度)			合併後10年目(平成26年度)		
	合併しない場合①	合併した場合②	比較②-①	合併しない場合①	合併した場合②	比較②-①
地方税	11,102	11,102	0	10,928	10,928	0
各種交付金	2,097	2,097	0	2,097	2,097	0
地方交付税	7,833	8,323	490	7,211	7,561	350
分担金・負担金	331	331	0	331	331	0
使用料・手数料	796	796	0	796	796	0
国・県支出金	4,484	4,598	114	4,484	4,598	114
その他収入	2,218	2,218	0	2,218	2,218	0
地方債	1,052	1,052	0	1,052	1,052	0
歳入総額	29,913	30,517	604	29,117	29,581	464

### ■ 歳入総額の推移



### ■ 地方交付税額の推移

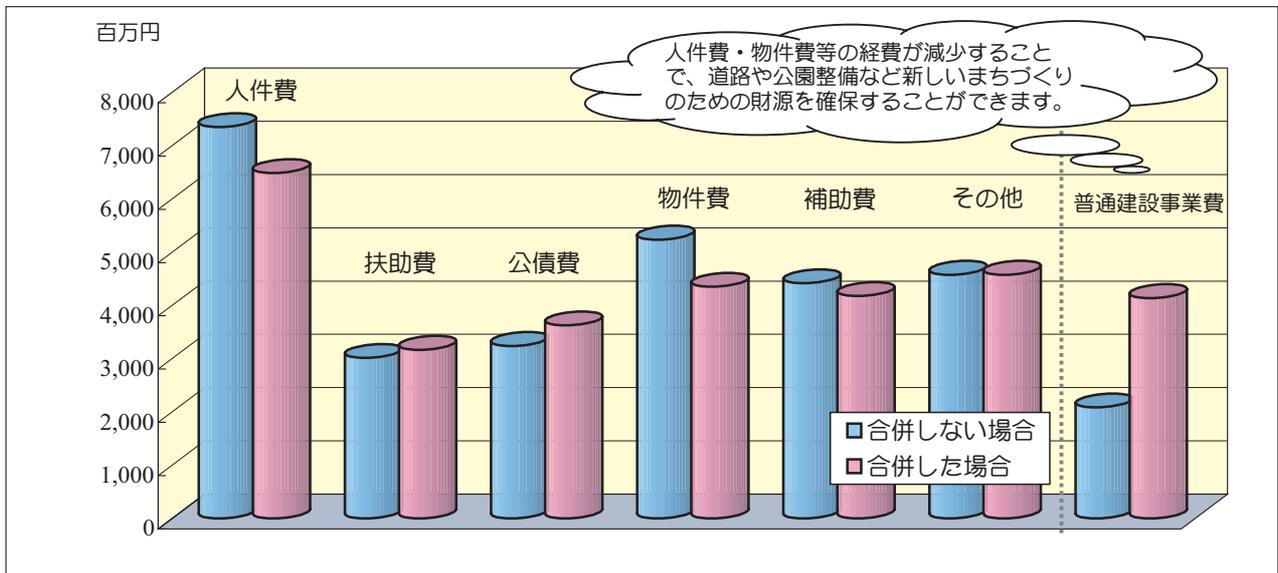


# 歳出

(単位：百万円)

区 分	合併後5年目(平成21年度)			合併後10年目(平成26年度)		
	合併しない場合①	合併した場合②	比較②-①	合併しない場合①	合併した場合②	比較②-①
人件費	7,348	6,484	▲864	7,348	5,377	▲1,971
扶助費	3,015	3,167	152	3,057	3,208	151
公債費	3,237	3,624	387	2,905	3,405	500
物件費	5,236	4,350	▲886	5,236	3,950	▲1,286
維持補修費	290	290	0	304	304	0
補助費	4,416	4,177	▲239	4,419	4,040	▲379
繰出金	3,196	3,196	0	3,320	3,320	0
積立金	0	0	0	0	0	0
投資・出資・貸付金	1,091	1,091	0	1,091	1,091	0
普通建設事業費	2,084	4,138	2,054	1,437	4,886	3,449
歳出総額	29,913	30,517	604	29,117	29,581	464

## ■ 合併後5年目(平成21年度)の比較



## ■ 合併後10年目(平成26年度)の比較

